



初期臨床研修

理念

プライマリ・ケアから高度な医療まで幅広い経験を積むとともに、多くの患者に様々な医療従事者と密接な連携のもとで接することにより、医師として必要な人格を育み、養います。

基本方針

- ① 臨床医として必要なプライマリ・ケアの基本的な診療能力（知識・技能・態度）を修得する
- ② 人としても信頼される人格・素養を身につけ、思いやりの心を持って患者およびその家族に向き合い患者中心の全人的医療を行える
- ③ チーム医療の一員としての役割を理解し、他職種と協働して診療することができるコミュニケーション能力を身につける
- ④ 医療安全の本質を理解し、実践する能力を身につける
- ⑤ 地域の中核病院としての役割を理解し、健康の保持、疾病の予防から社会復帰に至る医療全般の責任を有することを自覚し、行動できる

歯科臨床研修

理念

患者中心の全人的医療を理解した上で、歯科医師としての人格を涵養し、総合的な診療能力を身につけ、臨床研修を生涯教育の第一歩とします。

基本方針

- ① 全人的で科学的根拠に基づいた医療を実践できるよう、歯科医師として必要な基本的診療能力を身に付ける
- ② 患者さんの立場に立った人間味のある医療を目指す
- ③ メディカルスタッフや地域の担当者等幅広い職種の人達とコミュニケーションを十分にとり、チーム医療を推進する
- ④ 医療安全の本質を理解し、実践する能力を身につける
- ⑤ 歯科医師としての良識と品格を備えるよう努力する



創刊号に寄せて



松江市立病院の役割

病院長 紀川 純三

政治家で医師でもあった後藤新平は「金を残すのは下、仕事を残すのは中、そして、人を残すのが上である。」と述べています。病院にとっても人材育成は重要な課題です。松江市立病院の使命は、高度の医療体制を確保するとともに、各種専門医をはじめとする医療専門職を育成することにあります。特に、臨床研修病院として多くの研修医を受け入れています。初期研修の場は医師の将来に大きな影響を与えます。したがって、良質な教育・研修の場を提供することは当院の責務のひとつとなります。

教育・研修に際しては、細分化・高度化する医療に対応した設備、人員の確保、さらには、倫理感を基盤とした情操教育が必要です。研修医の希望に沿ったプログラムと経験豊かな指導医による有意義な研修を提供することにより、Research Mind を持った医師を育成したいと思います。

この度、研修医のための情報誌が創刊されることになりました。研修をともした仲間は一生の宝となります。研修医間、元研修医との情報を交換する場として本誌が活用され、研修や絆の一助になることを期待します。安部教育担当病院長補佐をはじめとする本誌の創刊に尽力された皆さんに感謝します。



ようこそ松江市立病院へ

卒後臨床研修委員会 委員長 安部 睦美

現在の初期臨床研修制度が始まって 10 年あまり、この制度においていろいろな問題はありますが、2 年間で「まず目の前にいる患者を診る」という点では目的は達しているように思います。医師として何ができるか？ 様々な面から「病める人のいのちをつないでいくこと」が私たち医師の役割ではないでしょうか。

研修の内容は我々のときとは本当に天と地くらいの差があります。患者さんにとっては今の制度の方がメリットが大きいと感じている今日この頃です。そんな中で研修を行い、終わるとき、何か自分の中でひとつでも得たものがあると感じてもらえれば研修病院としての役割を果たすことができたのではないかと思います。あと数か月の人、まだ 1 年あまり残している人、自分なりの目標をもって、今後も研修を行ってもらえると教える側としてはうれしい限りです。

また松江市立病院では様々な研修や市民の方々を対象とした研修会などを計画し、医療を提供する人、受ける人が同じ目線で向き合うことができるように心がけています。医療はチームで行わなければなりません。「お互いを尊重し合うこと」「お互いを認め合うこと」「お互いを思いやること」チーム医療のできる医師に育ってほしいと願っています。

地域医療研修合同説明会

当院と松江赤十字病院は、一昨年より合同で2年次の研修医が地域医療研修に従事する臨床研修協力施設を選択するための参考にしてもらうため、各施設の方に自施設の紹介をしてもらう合同説明会を開催しています。

今年は、当院が当番病院として10月14日に開催しました。7施設からの参加があり、それぞれの施設の特徴や地域の紹介を観光名所や名物等をおりまぜながら説明されました。充実した研修になることを期待しています。



昨秋、しまね地域医療支援センターにより「しまね地域医療研修病院ガイドブック」が作成されました。この1冊に島根県全域の臨床研修協力施設の情報が掲載されています。全ページカラーで各施設・地域の特徴や観光情報等も掲載されています。



浜田医療センターとの交流会

松江市立病院の初期研修体制を見学して

国立病院機構浜田医療センター 診療部長 土井 克史



松江市立病院での研修医の環境や処遇等について紹介しました。活発な意見交換会となりました。



今回の交流会で一番盛り上がった、懇親会。焼肉のコンロを囲んで多くの情報交換ができました。

当センターと比べ病床数、手術件数も同規模でありながら、研修医の人気の高い病院として期待して見学しました。

まず感じたのはきめ細かい研修医への対応です。院長との食事会や研修医ルームの設営、医局では指導医と同室である点などです。事務系職員が日々研修医と接しているのが特徴的でした。

また当直手当などやるを引き出すシステムが取り入れたいと思いました。指導医サイドへも指導へのインセンティブや学会補助、住居などへの手厚い対応があり、モチベーションを保つような努力が印象的でした。仮眠室の存在や病院全体の廊下、更衣室、手術室の広さ、明るさなどハード面、当院に比べ約2倍の医師スタッフの充実なども優れていましたが、ソフト面の様々な工夫に関してもたくさん参考になった見学でした。

地域医療の現場から

知床らうす国民健康保険診療所

2 年次研修医 横川 敬

8～9 月の 2 ヶ月間、当院の地域医療研修として初めて知床らうす国民健康保険診療所へ研修に行きました。私自身、北海道にはあまりなじみがなく、見るものすべてが新鮮で、充実した 2 ヶ月を送ることができました。診療所だけでは治療できない疾患も多く、近隣の医療機関にお願いすることも多々ありました。松江市立病院では、ほぼすべての疾患に対し専門の先生がおられ、設備も整っているため診断・治療に難渋することもあまり多くはありません。しかしながら北海道という土地柄もあり、近隣の医療機関へ紹介となると車で 1 時間、施設によっては 3 時間かかることもあり、容易ではない環境でした。

診療所ではありますが CT、MRI の設備があり、他院から撮影の依頼や、AI、検死のお手伝いも行ったり、50 年ぶりの台風被害にも見舞われ災害医療にも携わりました。

一般的に地域医療研修は島根県内で行うことが多い中で、島根では経験できないことをたくさん学ぶことができたと思います。今後も研修医の先生が羅臼で研修し、末永い関係を築いていただけたらと思います。



隠岐島前病院

2 年次研修医 藤原 和歌子

8 月の 1 ヶ月間、隠岐島前病院で研修しました。外来で(ドクター G で有名な)筋膜リリース注射を山ほど見たり、往診に同行したりと毎日が充実していました。また、救急外来で診察した患者を自分で外来フォローできる事や主治医として入院治療ができる事は、普段の研修にはない貴重な経験でした。医師とコメディカルの信頼関係が非常に強いことも印象的で、島の人の事をなんでも知っている看護師さんや、筋肉に詳しい PT・OT さんなど、

病院全体が 1 つのチームとなって島の医療を支えているように見えました。休みの日には、海に、BBQ に、夏祭りにと、様々なイベントを楽しむことができました。「キンニャモニャ祭り」のパレードにも参加させて頂き、これまでにないくらい夏を満喫したように思います。知らない土地での研修は不安でいっぱいでしたが、温かい人々に囲まれてとても楽しい 1 ヶ月となりました。



指導医からヒトコト

小児科 辻 靖博



研修医のみなさん、毎日仕事そして勉強に勤しんでいることと思います。知識も技術も何もなく、毎日指導医の後ろでうろたえる日々が続いていることと思います。でも、知識も技術もほとんどない新米研修医にも、いや研修医だからこそ出来ることがあります。それは担当指導医と担当患者を密接につなぐパイプ役になること。主治医になったからにはまずはその患者さん自体を知り尽くし（病気以外にも）、またその患者さんが気兼ねなく声をかけられる相手になれるように努力する、すなわち、病気の知識には乏しくても、まずはより患者さんに身近な存在になることが大事な任務だと私は思います。上級の医師になると入院患者をゆっくり診る時間も余裕も無くなり、ちょっとした変化にもなかなか気づいてあげられなくなります。また患者さんにとってはより上級の医師になるほどより遠いヒトのような存在に思えてきたりもします。そこで研修医の先生こそが（もちろん看護師さんもその役を担っているのですが）、その変化に早く気づいて上へ報告する、また上級医のIC内容を正確によりわかりやすいように患者さんに繰り返し話をしてあげるといった大役を担っていると思います。そのためには患者さんとの接触にできるだけ多くの時間を割く必要があります。そうしていれば、当然、病気についての知識をより現実的に身につけることも出来、教科書通りの（あるいは教科書とは異なる）病状の変化を目の当たりに観察することも出来るし、医療以外にも話術や、小児科であれば子供と遊ぶ術、親との関わり合い方も自然に身につけてきます。何の知識もない何も出来ない研修医にとっては、まずは観察すること、そのためには患者が起きている時間に出来るだけ接触することから始めるのが一番と思っています。教科書を読むのは患者が寝た後で良いです。まだまだ学生実習の時のような傍観者気分がいまひとつ抜けきっていないその研修医、頑張って立派な「医師」になってください。

研修風景

＜消化器内科レクチャー＞

研修医は救急外来に来院した患者を救えるのか？



指導：消化器内科 谷村先生

本紙のタイトル「たわれじ」の命名について

松江市立病院は、その建設時に遺跡が発掘され、田和山（たわやま）遺跡と名付けられました。現在国の史跡に指定され、病院と1つの風景のように共存しています。そのような環境の中で、日々研修に励んでいる平成28年度在籍の研修医達が命名した田和山レジデント「たわれじ」。四季折々の顔で研修医達を見守っている田和山のふもとで大きく成長してくれことを願っています。



＜腹部エコー研修＞



指導：消化器内科 加藤先生

＜縫合練習＞

ブタの皮での練習。みんな真剣そのもの！



指導：形成外科 松井先生



松江市立病院
Matsue City Hospital

〒690-8509
島根県松江市乃白町 32 番地 1
TEL(0852)60-8000(代)
FAX(0852)60-8005

発行者 / 松江市立病院病院長 紀川純三 編集・作成 / 医師支援室